

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

小規模多機能の介護保険前の認知症支援

～地域で支えるための種まき～



ふくおか官兵衛くん

facebook



医療法人社団誠仁会
小規模多機能施設めおといわ「ゆい」
党一浩(福岡市)

<http://www.meotoiwa.com>

あなたの「ご近所づきあい」の流儀は？(1)

- ①自分や自分の家族のことは隠しておきたい
- ②自分のことがご近所で噂されるのはイヤ
- ③人に助けを求めるのは苦手だ
- ④人に迷惑をかけることだけは絶対にしたくない

あなたの「ご近所づきあい」の流儀は？（2）

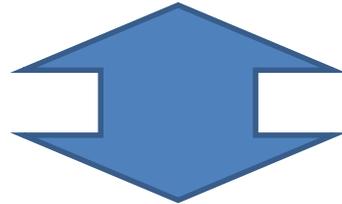
- ⑤人のことはなるべく詮索しないようにしている
- ⑥誰かが認知症だと気付いても、誰にも言わないようにしている
- ⑦困っている人にはお節介と言われないう程度に関わる
- ⑧引きこもるのにも事情があるから、無理にこじ開けるべきではない
- ⑨お互いのプライバシーは充分に尊重しあうべきだと思う
- ⑩隣人とはあまり深入りせず、ほどほどの付き合いを心がけている

今の社会を振り返ったとき

【地域社会】

◆思いやりの精神の存在

(「おたがいさまだから」「認サポやろう」・「SOSネットワーク作ろう」・「困っている人を地域で支えよう」という取り組みなど)



【当事者】

◆近所に迷惑をかけたくないという思い

◆困ったときご近所に「助けて!」といえてない現実(孤独死の問題・困りごとがあったときはすぐに介護サービスへ移行・サービス漬けになってしまう構図)

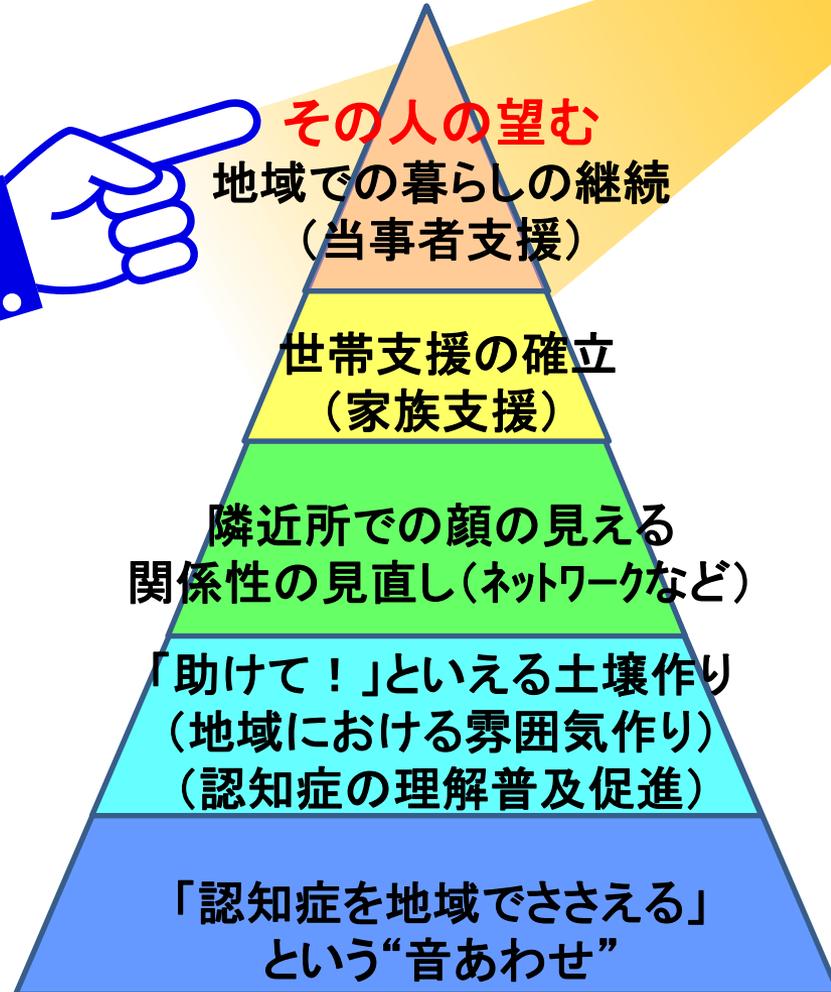
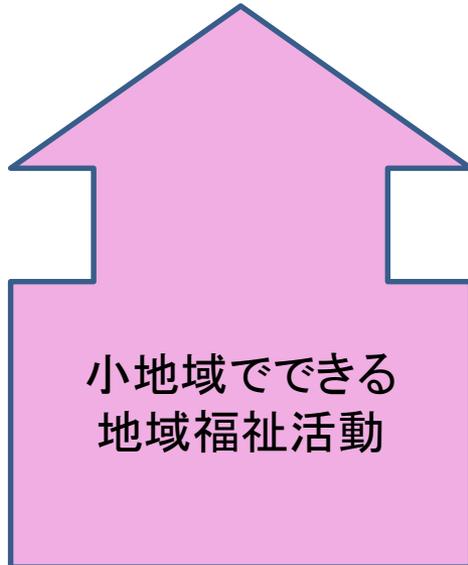
⇒地域社会から隔絶!

理念の実現に向けて 「住み慣れた地域で自分らしく暮らす」



- 【課題】
- ・公助の充実で公助が充実すると共助は引く
 - ・日本人のお付き合いの流儀
 - ・専門職も住民も「サービス」につなげる
⇒共助をあてにしない
- 【課題】
- ・公助の充実に伴う「自助力」、
 - ・日本人のお付き合いの流儀
 - ・専門職も住民も「サービス」につなげる

小地域福祉のこれから



個別ケース

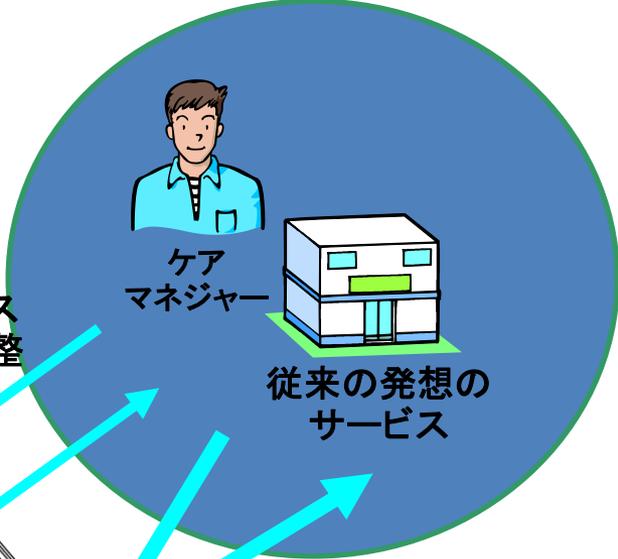
地域での取り組み

地域での暮らし

地域での暮らしをサービスで切らない

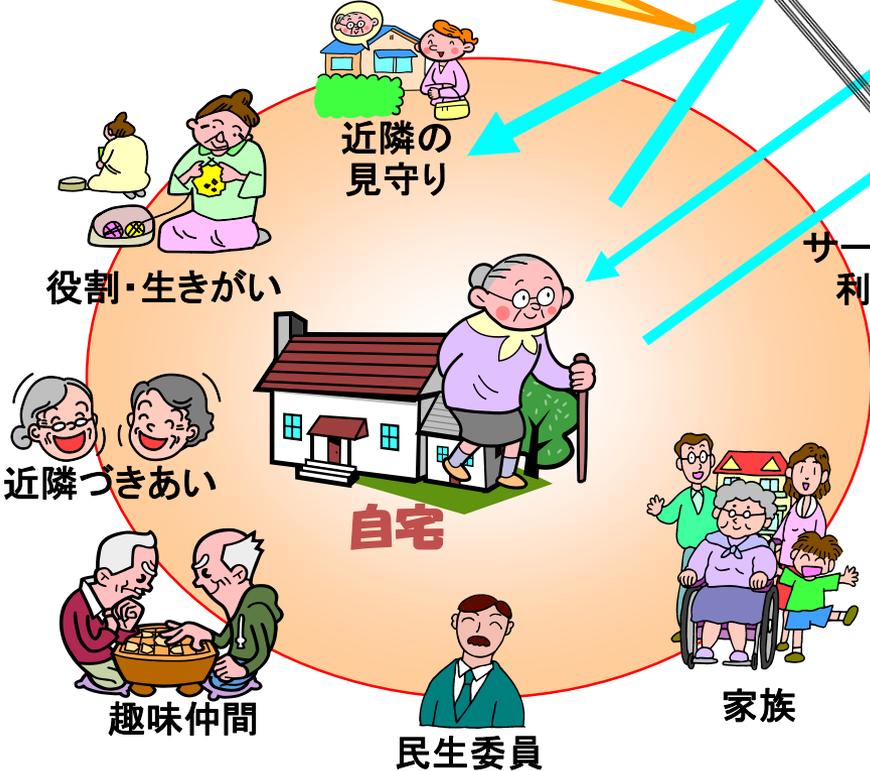
「福祉施設に行ったんだったら安心だわ」
「もう、専門家が関わってるんだったら大丈夫ね」
「茶飲み友達が減っちゃって淋しいね」

地域から本人を奪ってしまう支援



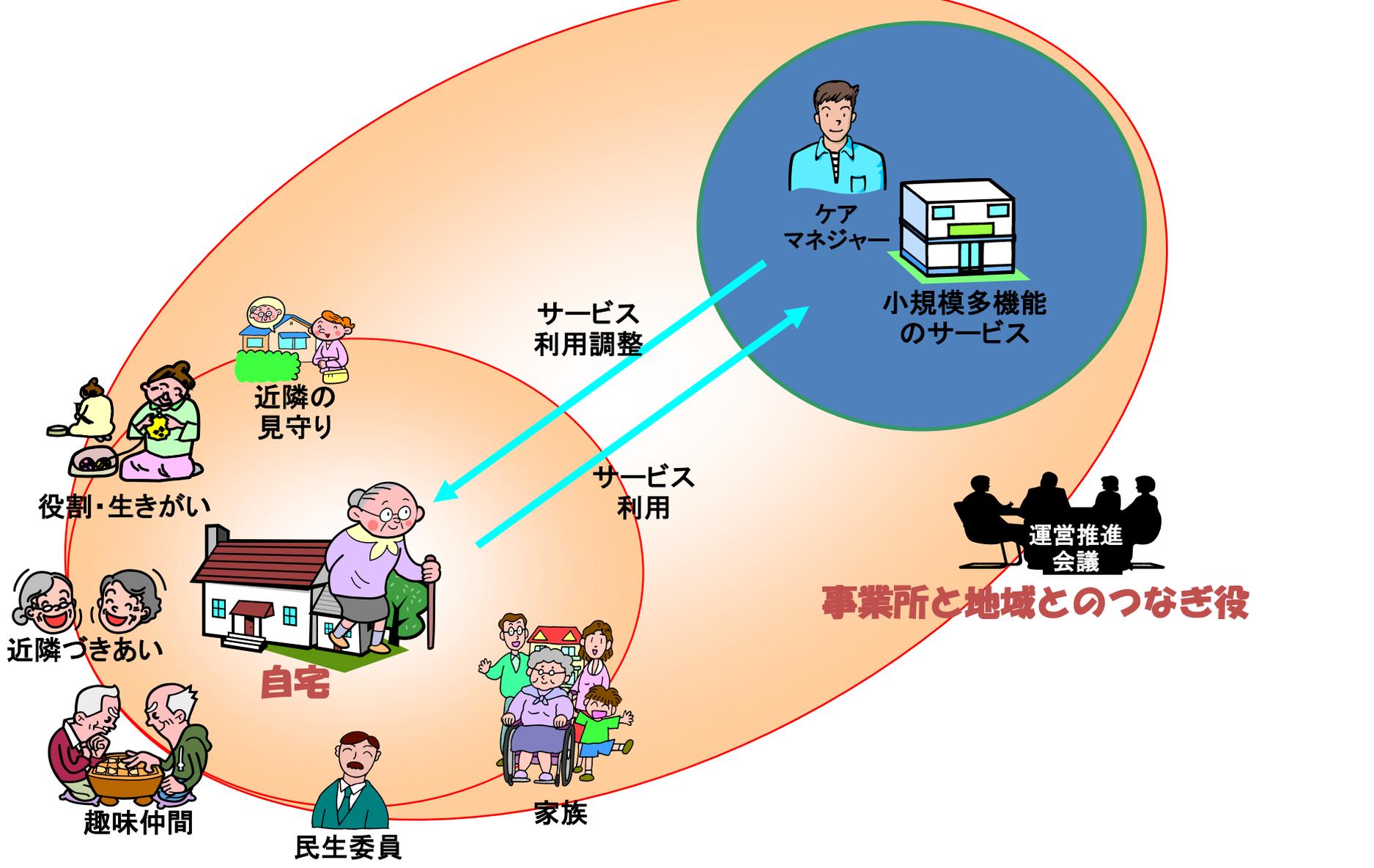
サービス
利用調整

サービス
利用



「家族に心配かけたくないから・・・」
「もう自分では、何もできないかも・・・」
「茶飲み友達が減っちゃって淋しいね」

地域での暮らしを支える支援



「認知症の方を地域で支えるための」

～土壌作りと種まき～

(福岡市城南区堤校区)



運営推進会議とは、

指定小規模多機能型居宅介護事業所、指定認知症対応型共同生活介護事業所、指定地域密着型特定施設入居者生活介護事業所が、利用者、市町村職員、地域住民の代表者等に対し、提供しているサービス内容等を明らかにすることにより、事業所による利用者の「抱え込み」を防止し、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質の確保を図ることを目的として、各事業所が自ら設置することになっています。また、会議における活動状況の報告や要望、助言等は記録をし、公表することになっています。

運営推進会議を活かして

- ◆「介護サービスに預けてればいい」「専門家だけに任せておけばいい」という思考からの転換
- ◆「認知症になっても、介護が必要になっても安心して地域で暮らし続ける」という理念を共有する機会
- ◆運営推進会議を事業所と地域、利用者と地域を結ぶ有効な手段として活用する

参加者全員で事例を深めあう



めおといわ「ゆい」 運営推進会議の様子

【参加者】

利用者、家族、自治会長、民生委員（複数）、公民館長、行政（市役所・区役所・校区担当保健師）、社会福祉協議会、認知症介護指導者、近所の介護事業所・ケアマネなど

【会議の内容】

- ・運営状況等の報告
- ・事例報告/検討
- ・それぞれからの情報発信
- ・意見交換
- ・「ゆい」にできること
- ・「地域」にできること
など…。

みんなで避難訓練



地域づくり・資源開発機能

◆参加者それぞれのニーズを確認する

○事業所・・・「24時間365日事業所だけで利用者の暮らしを支えることは限界がある」

「地域の理解や協力が得られれば、本人の意思とは無関係の安易な施設入所は防げるはず」

○地域住人・利用者・・・「老人ホームには入りたくない」「できればこの地で暮らし続けたい」

○行政・・・「だれもが住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくり」

～共通項目～

「住み慣れた地域での暮らしの継続性」

キーワードは『協働』

平成21年度から城南区で認知症を支えるモデル地区として現在も続いている

三位一体 (目的を明確化する)

地域

できればこの地に
住み続けたい

認知症でも大
丈夫なまち

お年寄りの暮らしを支えるために地域の理解協力が必要

だれもが安心して暮らせる地域づくり

事業所

行政

それぞれの役割

(それぞれの強みを活かす)

住人同士、日々のお付き合いの中で“お誘いあわせ”をする。「今度、公民館であるから行ってみようよ」「無視できん問題だから・・・。」

地域住人

認知症ケアに対する助言、専門的アプローチ、培ってきたスキルを反映

めおといわ「ゆい」

仕掛け人、プログラマー、それぞれの機関との関係調整役

行政

～地域で認知症を考える～
たとえばサポーター養成講座
への協力



目的: 認知症の理解を深めるとともに
地域住人の横のつながりを深める機
会にする。相互扶助の認識を強くする。



認知症への理解が浸透してくると…。

○「もっと認知症の理解を深めよう！」

○「認知症の人が安心できる地域って関心しあえる、支えあえる地域ってことだね。これって認知症だけではなく、地域にとっても必要なことだね」

○「じゃあ、我々一人ひとりにできることってなんだろう」

ほかの校区に呼ばれていくことも…。



～無関心から良質な関心へ～

◆「明日はわが身。自分の将来のことも考えてできる事をいまやろう！」

◆「地域でお互い関心しあい、支えあうことができるなら、きっとこれからの地域社会の役に立つだろう」

◆ひとつの成果物としての『地域住人による認知症啓発劇団“劇団つつみ”』

～劇団つつみ～

「認知症をやさしくつつみ(堤)こんで」



みんなが主体とな
って、イメージ
力をふくらませな
がらシナリオを描
く



役者は自治会長や
民生委員、ポラン
ティアのメンバー、
社協、公民館のか
たたち・・・



寸劇を踏まえて
意見交換



あーでもない
こーでもない

地域の文化祭で

○△会長が出るとるバイ！民
生委員の□○さんも！！
「やっぱりみんなで考えな
いかん・・・。」



**120名の聴衆者！立ち見
が出るほど！！
⇒「地域住人が主体となる
意味」**



社会福祉法人 福岡市城南区社会福祉協議会
城南区ボランティアセンター

〒814-0103 福岡市城南区早稲川1丁目2-28
城南支店1階
TEL:892-6427 FAX:832-6429
E-mail:jounenku@fukuoka-shakyo.or.jp

おまな記事

- 劇団つつみの活動
- ファミリー・サポート・センター会員募集
- ボランティア掲示板
- 「家族介護者のつどいの報告」

寸劇を通して認知症を知ってもらう 劇団つつみが大活躍!!



【買物で現金の支払い方法がわからなくなったシーン】

店員：「あんパンが300円とお菓子が70円で、合計370円です。」
おばあさん：「370円ね。えーと、ん……。あ〜わからん。とりあえずこれでよからう。」(1万円を返す)
店員：「もう、昨日も1万円であつていましたよ！おばあちゃん、細かいのはないですが、じゃらじゃら音がしていますよ。ちょっと財布の中を見せてください！」
おばあさん：「これは私のお金だよ。なにをするの。勝手にとらんで。」

これは埴地区で結成された「劇団つつみ」の寸劇の一コマです。劇団つつみは認知症を題材とした寸劇を行うグループで、自治会長や民生委員など埴地区で活躍する13名のメンバーで構成されています。結成のきっかけは、平成21年度に公民館で行われた認知症サポーター養成講座で、講座終了後、講座で学んだことを活かして、地域に貢献したいと考えたメンバーが集まり、劇団を結成しました。(2ページへつづく)

1ページのつづき

認知症になっても住み慣れたまちで暮らすには

劇団つつみの寸劇は、まず、誰もが降りやすい場から認知症への対応から始まります。そこで観客に「あなたならどう対応しますか？」と問いかけた後、劇団の活動を支援している介護施設の職員や関係者が、認知症の症状や認知症の方に対するときのポイントをわかりやすく紹介します。その後、観客の考えがまとまった場合を見計らって再び寸劇を始め、といった構成となっています。

寸劇のシナリオは介護施設の職員と保健師が中心となっておりましたが、回を重ねるたびにアドリブが多くなり、どんどんリアルになっています。また、時には飛び入りで観客に参加してくる観客もいるそうです。



【一昨年の校区文化祭で初公演!大好評でした。】



【福岡市認知症介護講座の様子】

活動の場は校区内の文化祭やふれあいサロン、城南保健所などが上ですが、最近ではふくふくプラザ(中央区戸戸)で行われている「福岡市認知症介護講座」に定期的に呼ばれるようにもなりました。

劇団メンバーは「もし認知症になっても、周囲のささえを得ながら住み慣れた町で暮らしたい。そういった思いを実現するために、劇団つつみを通して認知症に対する理解を地域に広めたい。」との思いをもって活動を続けています。

地域で支える福岡ファミリー・サポート・センター会員募集!

福岡ファミリー・サポート・センターは、子育てを応援してほしい人(依頼会員)と子育てを応援したい人(提供・両方会員)を地域のなかで結び会員組織です。会員になるためには、それぞれ講習が必要です。詳しくは下記までお問合せください。



12/8に城南支部の会員交流会を行い、親子でバステアートを楽しみました。

問合せ先

福岡ファミリー・サポート・センター城南支部
TEL:851-3970(土・日・祝日・年末年始を除く)

福祉・家事援助サービスの仕事は

何でもご相談ください!!

【お問い合わせは】

社団法人 福岡市シルバー人材センター

城南支部

〒810-0044 福岡市中央区六本松一丁目2番22号
TEL 731-4680 FAX 731-7731
ホームページ <http://www.fukuoka-sjc.org>



平成26年度 城南区高齢者演芸大会
主催 城南区シニアクラブ連合会



平成26年度 城南区高齢者 演芸大会で

優勝!!

城南区代表として福岡市の大会へ出場



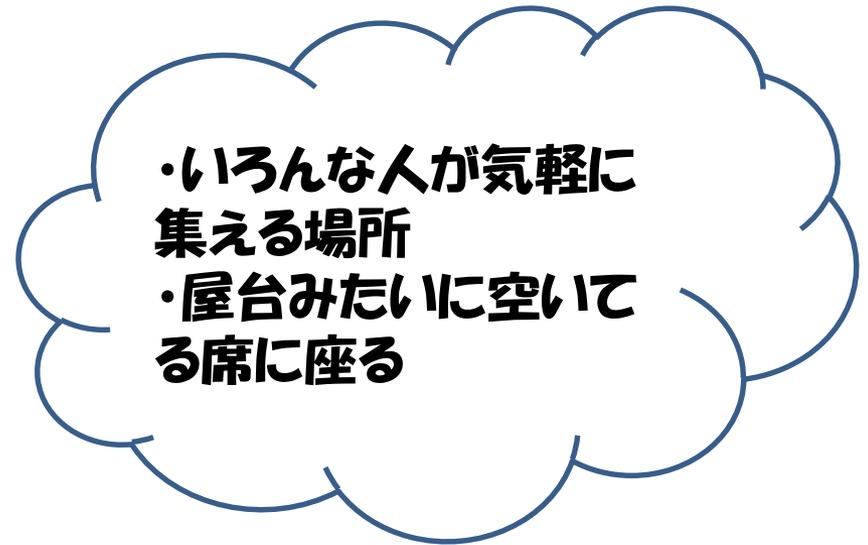
～堤校区 認知症事業～

つつみカフェ オープン♪



【目的】

- 認知症になっても住み慣れた堤地区で暮らし続ける
- 認知症に対する偏見や差別をなくす
- 自分達の手で、地域の為にできることを無理なくやる(継続する)
- 当事者も家族も悩みを抱え込まないで相談できる相手・場をつくる
- 地域のことは地域で支える
- 地域の成熟度を上げる(豊かな堤地区を作る)



- ・公民館で月一回開催(当日貸切)
- ・開店時間:10:00~16:00
- ・自由に気ままに来店
- ・毎回80名~100名近くの来店
- ・無料(募金箱を設置)
- ・認サポ受講者が当日ボランティア





自然と話が盛り上がる♪

たくさんの事業所を支えてくれるサポーターがいる
(認サポ受講者、劇団つつみ、推進会議のメンバー、
ケースで関わっている民生委員、サロン仲間)





認知症・介護よろず相談
～公民館の一室をかりて～
「ゆい」・区役所・地域包括で対応

行政

「ゆい」

地域包括

自分たちができること



福岡市
市政だより

区のシンボルキャラクター
油山の妖精「ニッコりん」




城南区

区のマーク

区ホームページは <http://www.city.fukuoka.lg.jp/jc>

期=日時、期間 所=場所 問=問い合わせ ☎=電話 F=ファクス 対=対象
料=料金、費用 託=託児 申=申し込み 電=メール HP=ホームページ 持=持

つつみカフェ
いらっしやいませんか



堤地区

堤公民館では、毎月最終週の平日に「つつみカフェ」が開催されています。

このカフェは、地域の人が買い物や散歩の帰りなどに気軽に立ち寄って、お茶やコーヒーなどを飲みながらおしゃべりを楽しんだり、認知症の人やその家族、介護をしている人や子育て中の人などが互いの悩み事などを相談したりする場として、今年の5月にオープンしました。

2回目の開催となった6月28日には92人が参加。近所に住む人や高齢者施設利用者などが、同席した人と会話を交わしたり音楽を聞いたりと思



い思いのスタイルでカフェを楽しんでいました(写真左)。運営しているボランティアグループの前田富美子さん(66)は「たくさんの人たちの協力があつてようやくこのカ

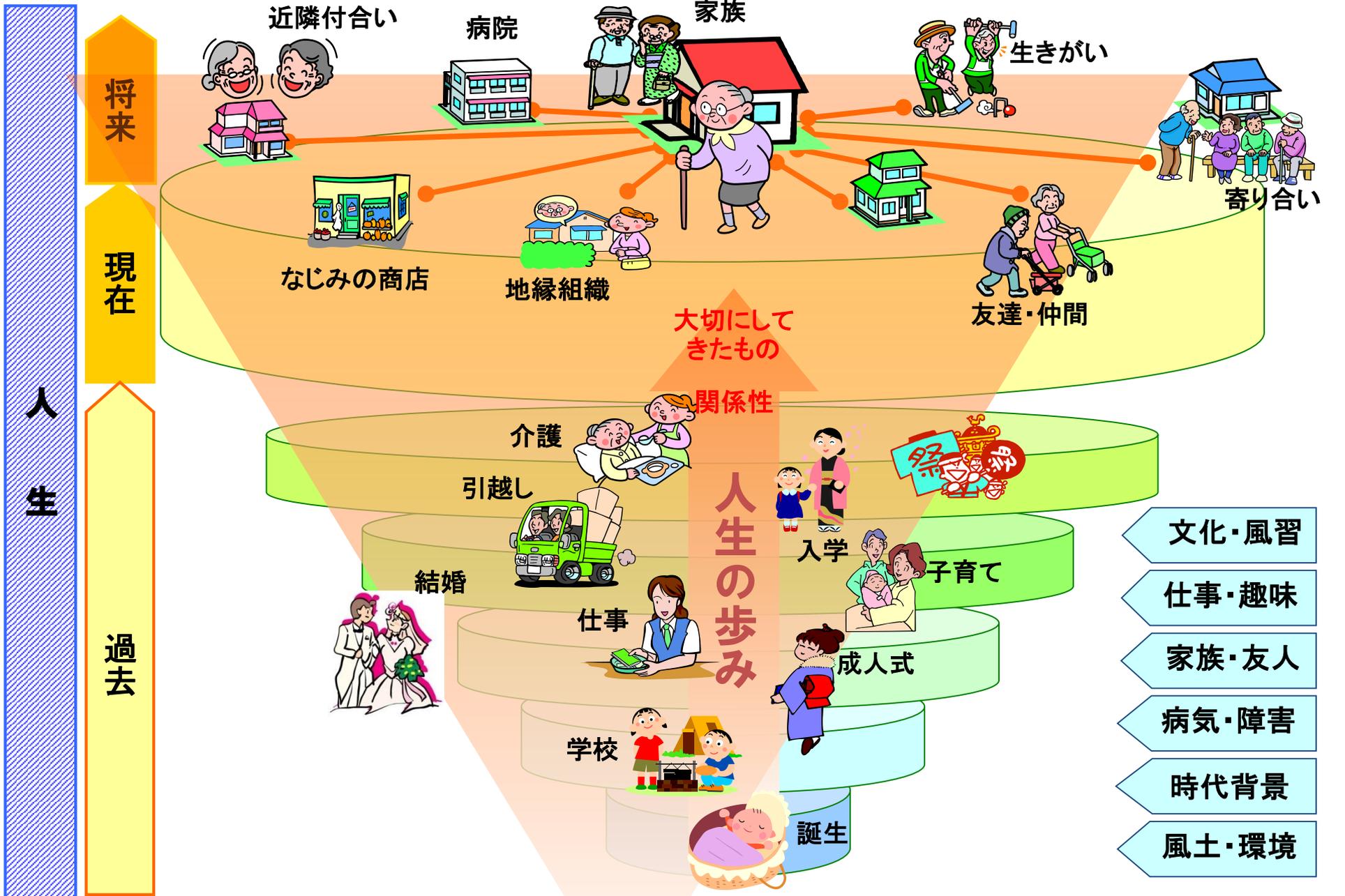
フェを始めることができました。また2回目なので手探りの運営ですが、今後は参加者に喜んでもらえるような企画を考えていきたいです」と話してくれました。

また、主催する堤地区自治協議会の山口繁実会長(78)は「幅広い世代の人が気兼ねなく立ち寄れるような場所にしたいと思っています。特に施設を利用してはいる高齢者には普段と違う、変化のある一日を楽しんでほしいですね」と話していました。

つつみカフェは参加費無料。次回の開催は8月29日(木)、午前10時～午後4時。

【問い合わせ先】
堤公民館 ☎833・553
FAX833・33100

人生の歩みの中で築かれたその人の暮らし





通い慣れた週一回の体操教室

「認知症になっても」
これまで築きあげ
てきた周りとの関係
を断ち切らない

長い付き合いの仲間たち

本人を支える
サポーターは身近
に存在する！！

⇒ 「近助」





介護事業所と地域がかかわる

毎月開催される
ふれあいサロン
(地域とかがわり続ける)

地域そのものが
認知症を支える
サポーター！



小規模多機能型居宅介護における
本人中心の支援機能(3層構造)



要援護高齢者
(本人)

第1層
パーソナルサポートネット



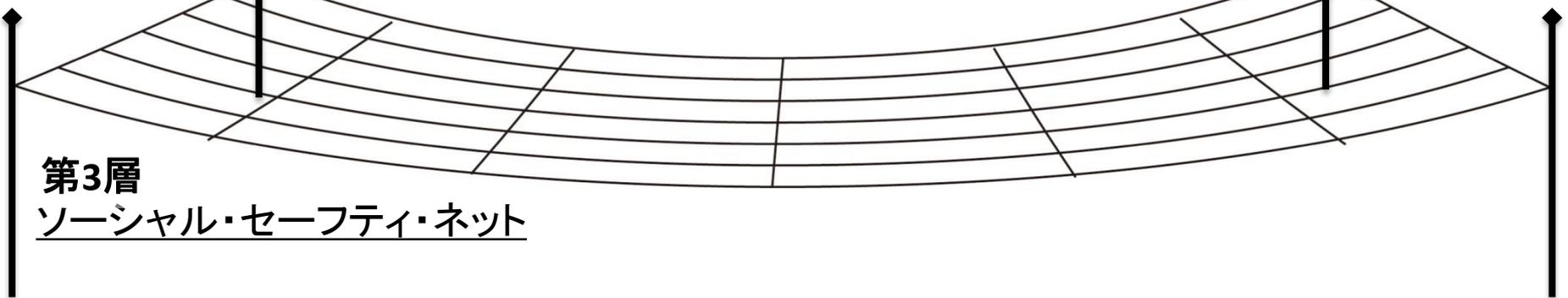
本人が人生でつむいできた「糸」をつむぎ直し、支援の輪を構築する

第2層
地域のセーフティネット機能



地域での声掛け運動や
見守りネットワーク等

第3層
ソーシャル・セーフティ・ネット



民生委員・
推進会議メ
ンバー

劇団つつみ

推進会議メンバー・
劇団つつみ

ほかのケースで関わっ
ている民生委員

サロン仲間

地域に住ん
でいる
ご利用者

ご利用者の
おとなりさん

ご利用者

民生委員・
推進会議メンバー

自治会長の奥さん
(ご主人は劇団つつみ/
推進会議メンバー)

昔から
の友人

ご近所





H25春 地域の方々とお花見